

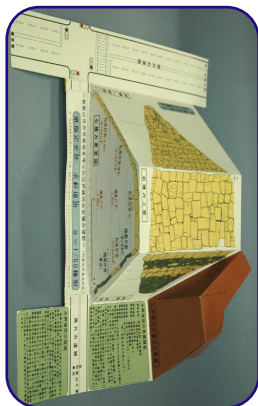
至 和歌山港

現代の道路

至 養翠園

(財) 和歌山県文化財センター
2006年11月10日模型作成

完成写真



西側（海側）

のりしろ
D

↑カッターで切れ目を入れて①を差し込み

切り取り

①

和泉砂岩(正方形)
(切り込みはぎ)

石積み断面図

— 和歌山市の市街地を守った江戸時代の石積み堤防 — (和歌山市西浜所在)

県指定史跡

水軒堤防

S = 1 / 50 模型

(財) 向日市埋蔵文化財センター 中塚 良氏の「ポータブル・ミニミュージアム」のアイデアをもとに作成しています。

のりしろ
B



石積み上面

いずみ さがん
和泉砂岩(大)

標高(T.P)
2.00m

和泉砂岩(横長)
(切り込みはぎ)

標高(T.P)
1.00m

結晶片岩
(一部に砂岩片)

和泉砂岩
(打ち込みはぎ)

けっしょうへんがん
結晶片岩(青石)

0 4 m

↑カッターで切れ目を入れて②を差し込み

切り取り

②

東側（陸側）

のりしろ
C

東側の石積みを覆っていた

江戸時代の盛土の断面

水軒堤防の発掘調査

遺跡名称：県指定史跡 水軒堤防
(昭和34年県指定)

調査場所：和歌山市西浜
調査経緯：道路拡幅工事に伴う
事前の発掘調査

調査期間：平成17年4月13日～7月30日
調査面積：約163㎡
調査担当：(財)和歌山県文化財センター
調査概要：

発掘調査で江戸時代(今から300年前)の石積み堤防が発見されました。

石積み堤防は、西側(海側)・東側(陸側)・上面の3面にお城の石垣のように石を積んでいます。石積みは3m以上の高さがあります。上面の幅(堤防の横幅)は約3.8mです。

西側(海側)の石積みは緩やかな角度で、きれいに加工した和泉砂岩の切石を隙間なく積んで、東側(陸側)の石積みは急な角度で、結晶片岩(青石)と粗く加工した和泉砂岩を交互に積んで造っています。石積み上面は、西側と同じように和泉砂岩を積んでいます。

現代の道路

至 和歌山工業
高校

水軒堤防の説明

和歌山南港(水軒浜)と水軒川との間に現存する防潮・防波堤防(高潮や高波を防ぐ堤防)で、南端は養翠園(江戸時代の庭園)まで続いています(延長1.6km)。石積み堤防は、過去の南海大地震(宝永大地震1707年、安政大地震1854年、昭和大地震1946年)などで破損していないことから、当時の土木技術が高かったことを示しています。

この堤防が造られた結果、高潮や高波、潮風を防ぐことができるようになったので、東側一帯が耕作できる土地になりました。現在に至るまで、高波や高潮等に対する防災の役割を十分に果たし和歌山市の市街地を守ってきたと考えられます。

和歌山県の防災の歴史を考える上で、水軒堤防は浜口梧陵が造った広川町の国指定史跡広村堤防(1858年完成)と並んで重要な歴史的な土木遺産といえます。

作り方

切りこみ

山折り

谷折り